

日本初の認定
ジアス
世界農業遺産
⑤

ジアスで住民主役の地域づくりを

新しい佐渡の将来を考える

(敬称略)

12月10日、金井コミュニティセンターで「ジアス（世界農業遺産）推進フォーラム」を開催しました。会場には約470人が集まり、ジアスを活用した地域づくりについて考えを深めました。

国際連合大学副学長・武内和彦さんと、同大学高等研究所所長 あん・まくどなるどさんによる基調講演では、ジアス認定の意義や、これからの佐渡の農業などについてお話しいただきました。

また、パネルディスカッションでは、NPO法人生物多様性農業支援センター理事長・原耕造さんをコーディネーターに、武内和彦さん、あん・まくどなるどさんのほか、日本雁を保護する会長・呉地正行さん、NPO法人佐渡芸能伝承機構理事長・松田祐樹さん、高野市長が参加し、佐渡での効果的なジアスの活用などについて意見が交わされました。

今回は、そのパネルディスカッションの要旨をお伝えします。



コーディネーター
NPO法人生物多様性
農業支援センター
理事長 原 耕造さん

呉地 ガンは豊かな湿地がないと生きることができません。農業に被害を与えることもありますが、そういう鳥たちには選ばれた田んぼの米は安全でおいしい。米を販売するとき、そういう物語を上乗せして販売でき、農家は経済的恩恵を受けることができます。ガンに配慮し、農業や化学肥料を使わず、安全な農法になります。無理なく、両方が共生ができるようになるのではないかと、賛同する農家が増えてきました。

佐渡にもマガンが来ています。トキとマガンがいるのは佐渡しかないのですが、マガンが重要な資源になるということ、皆さんに認識してもらいたいです。

原 トキだけに偏重しない生物多様性のあり方だと思います。

松田 ジアス認定の理由に、歴史、伝統、文化などを地域全体で守っていく取組みが高く評価されたということがあります。佐渡では隣（の集落）同士で芸能・文化が違うと思います。共通していることは、地域の人たちの暮らしを豊かにする役割が大きいということです。いろいろな地域の人が入ってきて、いろいろなところに大学生を入れたりして、その地域と交流を図り、芸能を続けていく、佐渡の素晴らしい文化を体験してもらおう取組みを行



冬期たん水（ふゆみずたんぼ）

テレビ放送!

「ジアス（世界農業遺産）推進フォーラム」の様子は、CNSテレビ（佐渡市ケーブルテレビ：デジタル112ch）で放送予定です。ご覧ください。

1月特別番組 放送時間8:00～、15:00～、22:00～

1月21日（土）・22日（日）放送

講演「自然共生社会の再構築と豊かな農業農村の創造」

講師：国際連合大学副学長 武内和彦 さん

講演「ジアス（世界農業遺産）の可能性」

講師：国際連合大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット
所長 あん・まくどなるど さん

1月28日（土）・29日（日）放送

パネルディスカッション「世界農業遺産活用への提言」